

ま　え　が　き

ここに、平成17年度和歌山県教育センター学びの丘研修員の1年間にわたる研修・研究の成果の一端を「研究集録 第31集」として刊行しました。

長期研修員制度は昭和50年に始まり、昨年度までの30年間で、県内各地方に送り出した研修員は361名に上ります。本年度の研修員は第31期となります。当教育センター学びの丘としては初めての研修員です。

昨年10月に出された中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する」(答申)では、優れた教師の条件として、①教職に対する強い情熱、②教育の専門家としての確かな力量、③総合的な人間力の3つを挙げています。また、今年1月、義務教育ニュービジョン研究会議が「和歌山の未来をひらく義務教育」(報告)をとりまとめ、本県において早急に取り組まなければならない課題の1つとして、教職員のスキルアップについて提言しています。

教員の資の向上を図る研修として、最も効果を上げているのが、長期研修員制度です。この制度は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教員としての資質や指導力を高めるとともに、教育課題解決のための研究を行い、その成果を本県教育に生かすことを目的としています。これまでの研修員は研修修了後、学校に戻り、研究を反映した実践をするとともに、各地方において中心となって活躍しています。

本年度の研修員10名は、教育センター学びの丘指定のテーマに基づく指定研究、自ら設定したテーマに基づく研究及び教育相談に関する研究に分かれ、実践的研究を進めてきました。いずれの研究も教育現場で直面している課題解決をねらいとしており、各学校において、これから教育実践の一助になるものと確信しております。

紙面の都合上、資料や授業記録等は大幅に割愛しなければならず、筆至らないところもあるうかと思いますが、授業研究、事例研究、調査研究等に努めた真摯な研究態度をお汲み取りいただき、是非とも御高覧のうえ、忌憚のない御意見・御批判を賜りたく存じます。

最後になりましたが、本年度、各研修員が研究を進めるにあたり、温かい御支援・御協力をいただきました関係各位に心からお礼申し上げます。

平成18年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所長　吉松　敏隆